

令和4年度 協議会総会を開催（5月27日）



5月27日13時30分から、ひたちなかテクノセンター研修ホールにて令和4年度いばらき量子線利活用協議会の総会が開催されました。

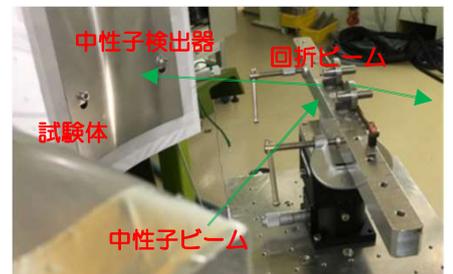
冒頭、須賀会長(株)NAT代表取締役社長)より「これまでのJ-PARC利用促進に係る支援とJ-PARCの周辺機器の開発に係る支援の2本柱から、今年度は量子線技術を活用した新事業・新ビジネスへの参入支援を加えた3本柱で取り組み、協議会活動を活性化させたい」と力強く開会挨拶。さらに、県科学技術振興課/海野副参事から「協議会活動を通じて、県内企業の活性化に貢献したい」との挨拶をいただきました。続いて、事務局/上村が昨年度の活動報告や実績統計の説明の後、本年度は会長挨拶のように3本柱で活動することを報告し、ご支援とご協力をお願いしました。

その後、3件の技術発表がありました。最初に「中性子産業利用の現状と茨城県の取り組み」について県産業戦略部/安齋中性子利用推進監から昨年度のJ-PARC利用実績や成果と今後の展望についての報告がありました。次いで具体的なJ-PARC利用事例としてまず、(株)青山製作所の富永氏から「塑性流動結合法により製造されたリング・シャフト炭素鋼部品の内部応力測定」と題して、中性子回折測定を活用し塑性流動結合部分の応力を測定した事例の発表がありました。

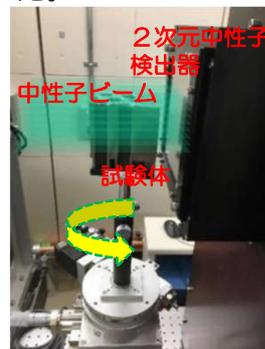
次に新日本非破壊検査(株)の今津氏から「大型管式熱交換器の伝熱管端溶接部欠陥のCT法検出の試み」について発表がありました。中性子によるCT画像で確認できた欠陥画像と小型のX線ラジオグラフィ装置での欠陥画像はよく一致し、小型検査装置が実運用可能なことが確認できたということでした。

最後に、(株)日立製作所研究開発グループの定岡氏より「産業用X線CTの活用状況と最新技術動向」の演題で、特別講演をいただきました。産業用X線CT装置の概要、単なる断面撮影から形状をデジタル化しデジタルエンジニアリングへの活用に進化している現状、CT装置の最新技術動向、並びにX線と中性子の複合イメージングの開発例等、X線CT装置のハード・ソフト全般に渡って解説していただきました。

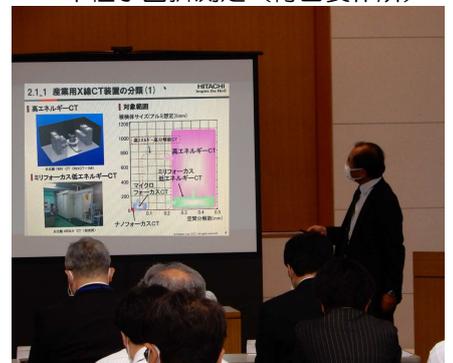
なお、本総会当日は激しい雨の中37名(含事務局)の出席でしたが、発表・講演とも質疑応答があり、出席者の関心の高さをうかがわせました。



J-PARC活用 事例1
中性子回折測定(青山製作所)



事例2 中性子CT撮影
(新日本非破壊検査)



日立製作所 定岡氏による特別講演

予告：QSTによる量子線利活用よろず相談会開催（7月8日）

量子線とは何?どのような使い方ができるの?量子科学技術研究開発機構(QST)の研究者・技術者が実例を含めて懇切丁寧に説明、相談にのってくれる、よろず相談会を7月8日(金)午後15時にひたちなかテクノセンター研修ホールにて開催を予定しています。

詳細は別途ご案内いたしますが、QSTや量子線のことをまとめて知ることでできる講演だけでなく、QSTの研究者・技術者と直接話せるブース(7件)やQSTを活用して製品を開発した企業の説明を聞けるブース(3件)も予定しております。

皆様、ぜひともご参加をお願いいたします。